



「どなたでも大歓迎です」と辻さん

輝いています

ひと

辻由美子 さん

コミュニティナース

地域とつながる看護師さん

看

看護師さんがいるところといえ、真っ先に思いつくのが病院です。でも、コミュニティナースは病院に行かなくても、健康について気になったり、もの忘れが多くて心配になったりと、毎日の暮らしの中で気になることがあれば気軽に相談できる地域の中の看護師さん。そんなコミュニティナースの活動に取り組んでいるのが辻由美子さん(50歳・錦町1丁目)です。辻さんの願いは、まちの中でみんながつながり合いながら元気に過ごせること。3年前、仕事の枠の中だけの看護に窮屈さを感じていたとき、コミュニティナースの活動を知り、「これが私のやりたいこ

とだ」と心を躍らせ、すぐさまコミュニティナースプロジェクトに参加。知識と経験を積み重ね、わらびネットワークステーションにも相談しながら、昨年、自分の活動をできる念願の場所が決まりました。

そこは塚越1丁目の喫茶店「ボン・クラージュ」。お店のご協力をいただき実現した辻さんの活動拠点「街の保健室」です。毎月第2水曜日、辻さんは喫茶店のテーブルに座っています。お客さんと間違いかもしれませんが、テーブルにはしっかりと血圧測定器が置いてあります。始まって1年4か月たった今、そこには「いつも楽しいわ、また来るね」と言って笑顔で帰る参加者の姿がありました。辻さんは、「ここにきて心も体も元気になってもらえればうれしいですね」と目を細めます。

現在は地域を巻き込んだ更なる活動も計画中です。「まちの中にはなにか活動したいけど踏み出せない人がいると思います。私の活動がそんな人たちの後押しになれば」と話す辻さん。これからは廠のコミュニティナースとして、楽しい場と元気をつくり、まちの笑顔を引き出していきます。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No.39 —



明治18年(1885)、暁斎は英国人建築家ジョサイア・コンドルの目の前でこの作品を描きました。対象を観察した後、記憶を元に描くという独特の写生法により、暁斎は実物を見ることなく、縦横無尽に水と戯れる鯉のさまざまな姿態を描いたと、コンドルは著作『Paintings and Studies by Kawanabe Kiyosai』(1911年刊)の中で述べています。そしてこの作品の左端の2匹を手にコンドルは「鯉之図」を描きました。今回は本図とコンドル筆「鯉之図」の両方を展示しますので、それぞれの鯉の絵を見比べることができます。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

河鍋暁斎記念美術館 8月25日(日)まで
「暁斎いきもの図鑑」展 同時開催「第33回かえる展」

開館 = 午前10時～午後4時
休館 = 木曜日・毎月26日～末日
ところ = 南町4-36-4
入館料 = 一般600円 65歳以上500円
高校生・大学生500円
小・中学生300円

※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください。(20人以上の団体は要予約)

詳細 = 同館(☎441・9780)



展示会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください



りょうきゆうすい
暁斎筆「鯉魚遊泳図」
絹本墨画金彩 軸装

本作品は現在の展示会で御覧いただけます

市制施行60周年記念
キャッチフレーズ

笑顔 希望 ずっとぎゅっと蕨

～今月の表紙～ トウモロコシ収穫

先月6日、南公民館運営のいもっ子クラブの菜園(中央7)で児童23人が収穫を体験。りっぱな出来に笑顔も豊作でした。

